

## 四歳児の

## 自由あそびの中で



富 樫 純 子

幼稚園における幼児の望ましい経験や活動を考えてみると、それの子どもたちが、自発的に自由にのびのびと楽しくあそべるということが大切である。

自発活動を自由にじゅうぶんに経験させるということをねらいの一つとして、四歳児と過ごしたこの一年間の自由あそびを、思いつくまにふりかえってみよう。

入園当初、新入園児は早く幼稚園になれて安定感をもってあそべ、だんだんに友だちあそびの楽しさがわかるように、三歳からの子どもたちは、新旧の別なく友だちと楽しくあそべるように、先生もいっしょになってあそんだ。できるだけ、友だち同士のむすびつ

みんないっしょにかごめかごめ



きをはかる一方法として、集団あそびを多く取り入れた。集団あそびとしては比較的簡単な、かごめかごめや、はないちもんめをしてあそんだ。春の暖かい日のもので、はじめはただ眺めていた子どもたちも加わって、だんだんに参加する人数もふえていった。

幼稚園のようすを一わたり知るために、山や庭を一まわりした。

その折、山で草をつみ、ままごのごちそうにしたり、うきぎやモルモットにあげたりした。草がなくなるとまた山に行っては草をとりに、何回もあきずにくりかえされた。あるときは、その草でうでわや首かざりなど作ったときもあった。

山にある丸木の上ののって、両側からわたってきて、ジャンケンをしてはまけた子どもがおきて、次の子どもとジャンケンする、このあそびもくりかえしくりかえしあそばれた。特に男児が喜んだのは、山での虫とりや、簡単な野球ごっこや、砂場で山や川や池やダムをつくることで、一方砂場では、ケーキやアイスクリーム、おだんごなどのごちそうつくりも盛んであった。またすべり台、ブランコ、ジャングルジム、自動車なども子どもたちに喜ばれた。

室内では積木、汽車、ままごと、絵本、ブロックなどの遊具であそんだ。この頃の子どものようすをみると、遊具によって誘われてあそぶ子どもが多いので、親しみやすいおもちゃを整え、なげなくあそびかけのように用意しておき、汽車や線路のつづきを続けてもらうようにしたり、ままごとなどの好きそうな子どもは、ま

まごとにきそい、先生はお客さまになってごちそうを食べに行ったり、絵本を読んであげたり、ブロックをしている子どもにも声をかけるなど、級の子どもたち全員に親しく接するように、あそびのきかけをつくるように努めた。つきそいから離れて不安そうな子どもとは、手をつないでいっしょにあそんだり、お友だち関係ができるように、助言したりした。

このようにして、だんだんに幼稚園は楽しくあそべるところだといふことがわかってきたようだった。

五月に日産厚生園に遠足に行ったときは、母親もいっしょになって、集団あそびの一つ、ところどころをして、親子でジャンケンをしたりひっぱりっこをしたり、ボールごっこをしたりしてあそんだ。母親もいっしょになってあそんだので、子どもたちも喜び、母親同士も親しみをましたようだった。

この頃からままごとと二軒にわかれてあそんだり、砂場では大きな山や池がグループの協力によってできたりするようになってきた。集団あそびもきまりがわかるようになったので、あぶくたつたにえたつたや鬼ごっこなども喜んであそぶようになった。一方、遊具のとりにあいによるけんかや、きまりをまもらないことによるあそびなども機会をみては根気よく指導した。藤棚の下でチョークで地面に絵をかくてあそぶのも喜ばれた。大きな船や飛行機や汽車をかいて乗ったりして子どもたちの夢は果てしなく広がっていった。



大きなお山できたよ



たり、食券を作ったり、食堂のウェイ  
トレスやコックの帽子を作ったり、食  
堂のテーブルクロスやお皿に絵をかく  
などして、あそぶものを自分たちで考  
えて作るように誘導した。

六月頃には、指人形や、人形を使っ  
ての人形芝居ごっこが盛んに行なわれ  
た。見る子どもと実演する子どもにわ  
かれ、幕間にはおべん当や果物を売る  
子どももできて、交替してあそんでい  
た。レコードをかけて自由にバレエを  
おどることも喜ばれたあそびの一つで  
新しいことになれにくく、入園以来、  
まだじゅうぶんに自分をだしきってい  
ないようすのおとなしいH子も、バレ  
ーごっこになると、夢中になって、上  
手におどっているの、それが友だちの目にとまり、だんだんとH  
子が友だちに認められるきっかけとなり、自分でも自信を持つよう  
になったようだった。かごめかごめ子どもたちだけであそばれ  
た。子どもたちの中から、うしろのしょうめんだあれの人が鬼にな  
かなかわかないと、まわりの子どもから「一番はじめに、あいつ

床上積木で船や電車ができて、ままごとのグループの子どもたち  
が、ごちそうをもって、人形やぬいぐるみの動物たちを連れて遠足  
にでかけることもあるし、乗物の運転手たちが、ままごとの食堂に  
ごちそうを食べに行くなどグループの交流も盛んにみられるように  
なった。あそびが発展するように、乗物のきっぷをいっしょに作っ

くひとですよ」とか「おわりに、おのつくひとですよ」とか、ヒントをだしあうなど、ほほえましい光景もみられるようになった。

ブロックでお魚つりごっこをしていたので、お魚の製作に発展させ、積木でつり堀を作り、級中でお魚つりごっこを継続してあそんだときもあった。

夏休みのあとは海や山の再現あそびが多くみられた。船を作ってお魚つりをしたり、プールで泳いだり、山へ探険にでかけたりした。

ベアブロックでは、いろいろな考えて機械なども作られていたが、特にロボットづくりが盛んであった。工夫されたおもしろいロボットが次から次へと考えられ、ロボット工場からロボットやさんになるときもあった。集団あそびの、しのび足も年長組があそぶのに刺激されよくあそばれた。年齢相応にきまりも年長組のよりやや簡単に子どもたちの中から相談してきめられてあそんでいた。こういう子どもたちからのあそびの中にも、先生が仲間に入るとより楽しくなることもあり、先生といっしょだと仲間に入る子どももいるし、やや複雑なきまりでよくわからない子どもには、気を配ってあそびのきまりを知らせるようにもした。

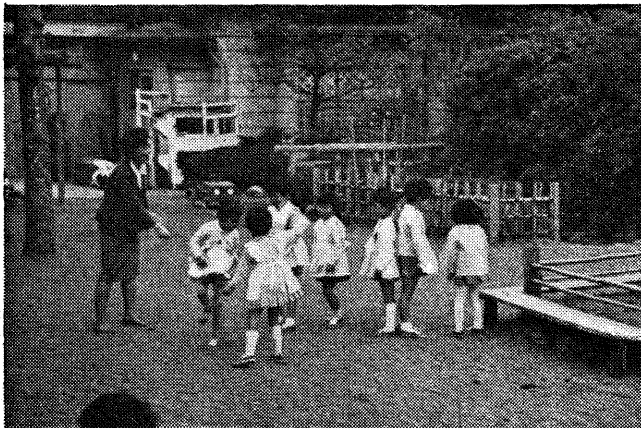
もう一つ年長組のリレーに刺激をうけ、バトンリレーも毎日よくあそばれた。人数がはんばのときは先生もいっしょに走ったり、応援に加わったりした。何回もくりかえしくりかえし走るので、なか

なか最後にならないときには、決勝をきめて静かなほかのあそびにむけることもあった。お姫さまごっこ、お家ごっこもよくしていたあそびの一つで、子どもたちはお姫さまや王子さまや動物などになりきって、部屋でも山でもあそんでいた。

十月頃から女兒のあいだでなわとびが盛んになり、おおなみこなみとおじょうさま

お入りなさいをよくしてあそんだ。

なわとびは、なかなかとべない子どももいるので、個人差に応じて先生は、はいとどぶときに声をかけるなどして、どぶごつがわかるようにしたり、少しでもとべたらほめてあげたり、なわのまわし方にも留意した。鬼ごっこも木



おおなみこなみ（なわとび）

おじょうさまおはいりなさい（なわとび）



も盛んに行なわれた。

十一月も戸外でのリレーやなわとび、鬼ごっこなどは、参加するグループの人数も多くなって興味をもってあそびられた。十一月の中頃なわとびのおじょうさまお入りなさいを、子どもたちだけでなわをまわして入れてあげるとびあう光景もみられた。製作した双眼鏡

鬼だけでなく、た

か鬼、しゃがみ鬼、手つなぎ鬼など興味をもつようだった。集団あそびでは、たけのこ一本おくれ、さくらさくらなども喜ん

でした。ままごとも暖かい園庭でもはじめられ、遠足ごっこや幼稚園ごっこに発展するときもあった。山での虫とりや虫の研究など

や写真機を持って、探険隊員になったり、写真をつつしては写真の絵をかいてわたす写真やごっこも盛んであった。

十二月に入るときすがに室内あそびのバズル、あやとり、かるたなどが盛んになり、日常のままごと、積木、人形芝居ごっこ、製作したおもちゃでのうりかいあそびも楽しいようだったし、紙ひこうきもいろいろ作ってはとばしていた。

一月も室内あそびが多い毎日だったので、積木を使って道路やビルや飛行場をつくったり、くみ木やくみ板などで、いろいろな自動車や汽車を考えて作って、高速道路を走らせたり、飛行機を作ったりしていた。あやとりも互いに教えあったり、と



鬼さんなかなかつかまらないよ（丸鬼）



りあったりしていた。

二月に入り簡単なヘーフサートを子どもたちが作って実演してあそんだりもした。鬼ごっこも盛んに行なわれてはいるが、鬼になる子どもが大分きまってきたりするように変化が少なくなったので先生も加わり、丸鬼をして鬼ごっこに刺激を与えてあそんだりもした。

三月になり、少し暖かい日は砂場でのあそびが、一そう発展して夢中になっていた。鉄棒もまわったり、とびついたりして年間あそんでいたのいろいろなことができるようになり、それを友だちや先生にみてもらうのが嬉しかったり、たいこぼしものぼったり間からおられるのが得意のようすで認めてもらうのが楽しいようだった。

こうしていろいろ考えてみると、入園当初は一つのおそびに長続きしないで落着きなくあちこちしていたA夫も、乱暴でいつもあそびをかきまわしていたB夫も、なかなか友だちあそびに入れなかったC夫も、自己主張ばかりしていたA子も、協調性が少なくなわがままだったB子も、きまった友だちとしかあそべず、泣虫だったC子も……だんだんにいろいろな友だちとあそべるようになったし、グループの一員として自分の主張もできるようになったし、わがままも通さなくなったし、乱暴もしなくなりきまりも守れるようになったし……それぞれが、ずいぶん成長し、進歩したと思う。でも、もう一歩努力のいる子どももいるが、年長組になったら、より以上経験や活動も豊富に、自発的に、のびのびと子どもらしく創造力豊かに、たくましくのびてくれるようにと願っている。